

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 東通り)

事業所番号	0691900013		
法人名	特定非営利活動法人あすなろの会		
事業所名	グループホームあすなる南陽		
所在地	山形県南陽市宮内2767-15		
自己評価作成日	平成22年8月31日	開設年月日	平成18年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いを感じて、相手の立場になりケアする事を心掛けています。できる事はなるべく長い目で見守り自信が持てる様待つ姿勢を大事にしています。ミュージックケアは日課の中で定着し、職員・入居者双方で楽しめるようメニューを工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所での夏祭り、ボランティアの来所、買い物や理美容、又日常の散歩等を通し、地域との方々との交流が図られており、利用者が従来の生活の延長として過ごせるよう取り組まれている。事業所内でも利用者が快適に暮らせるよう玄関や、居間には季節の花が飾られ、週一回のミュージックケアも取り入れられている。又、これ以外でも利用者が楽しく過ごせるよう工夫されており、普段より利用者の歌声が事業所に響いている、楽しげな事業所である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19番6号-2F		
訪問調査日	平成22年9月28日	評価結果決定日	平成22年10月18日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールや事務室に掲示し常に振り返ることができるように心がけている。朝の申し送り時やミーティング時に問題点があれば常に振り返りをしている。	[自分らしさ]「笑顔のある生活」の理念を月1回のミーティング及びカンファレンスの時に業務と関連し理念の振り返りをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地元・町内会に参加しており、地元のお祭りでおみこしを見せて頂いたり、ボランティアの受け入れ等交流を図っている。	散歩の途中、近所の人達と日常あいさつを交わしたり、話をしている。買い物や、美容室、理容室を利用し利用者は店員との話を楽しんでいる。又、事業所の夏祭りには地域の地区長や民生委員を招待したり、ボランティアの受入を行ったりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現段階ではあまり積極的ではないが、今年度隣接した土地を購入しており、今後整備し、地域のコミュニティスペースとして活用を検討する予定。	/	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員や老人クラブの方等をお招きし、2ヶ月に1度開催している。最近は、地域の方も積極的に意見を出して頂き、盛り上がりを見せている。	2ヶ月に一度定期的に開催されており、民生委員、老人クラブの代表出席者10名程の参加で防災訓練、ボランティアの協力等の話を行い、地域との連携を深めるよう活用している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進委員のメンバーに南陽市の福祉課の職員も参加し、現況を報告し、アドバイスを頂いている。必要時メールのやり取りや電話で随時報告・相談している。	運営推進会議に参加して頂き情報交換している。相談等は電話やメールで意見を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	多動の方等が危険の無いように玄関に施錠する時がある。又、転倒防止の為、ベットの柵を2本している方がいるが、両者とも家族の同意を得ている。基本的には常にスタッフが寄り添い、見守りをし、拘束無く安心して安全に過ごせる様努めている。	基本的には拘束なく、安心してすごせるよう努めているが、止むを得ず施錠、ベットの柵の利用等をする場合は家族の同意と了解を得ている。又、法人の年4回の研修会では身体拘束に関するテーマを取り上げ、スタッフにどのような事が身体拘束にあたるかを教育している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加しその内容について、会議等で伝達研修をしている。又、虐待が見過ごされないよう報告・連絡・相談を心がけている。他、職員個々への聞き取りによる状況把握に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し周知している。職員や家族からの相談で身元引受人と入居者双方の意見を聞いて対応している。市役所・主治医・会社相互で情報を共有したケースあり今後もトラブルの無いよう本人のために支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終了はやむ終えない状況で入院等になった場合が多いが十分な説明と主治医からの意見もありスムーズに移行ができています。改正の場合は別紙にて印鑑を頂いているが、家族会や面会時・さらに文書にてもれなく説明し理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会にて意見・要望等を把握し、推進会議の議題に上げ検討したり、反映できるようにしている。	家族会があり、年1回の総会で夏まつり、いも煮会等の計画をすると同時に、家族からの意見も聴取している。又、毎月の請求書を送付する時にアンケートで家族の意見を集約することも検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見交換できる様に設定している。又、緊急に話し合わなければいけない時は朝の申し送り時や連絡ノートを使い周知に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は管理者を通し毎月報告している。又、スタッフの家庭の事情を考え、希望の休みも取り入れ安心して働ける状況を作れるよう努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会主催の交換実習や研修会。さらに外部の研修に平均して参加できるよう配慮し機会を設けている。又、法人内でも定期的に学習会を実施し、全体のスキルアップに努めている。	法人に研修委員会があり、年4回内部研修がある。又新人研修も行われている。外部研修に参加した時は、伝達研修で報告している。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県のグループホーム協議会の会合や研修会に参加し他事業者の方々と交流の場を作れるよう取り組んでいる。	県のグループホーム協会に参加して同業者と交流して情報交換している。又交換実習の受け入れを行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前面談・見学・実調の際、本人の不安が少しでも和らぐ様、心配事や要望を具体的に聞きとる努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までスムーズに進められるよう最初の聞き取りで必要な情報をなるべく多く聞けるように努めている。本人の前で聞けない事・話せない事もあるので、さりげなく場を作り、新しい生活に不安が無いよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実調である程度ニーズを把握しさらになにを一番求めているかを感じたり観察する目を養えるよう努めている。さらにそれをケアにいかす努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の意向を尊重し、かつての経験や昔の風習などを聞いて生活に取り入れたりしている。行事やイベントでは職員も一緒に楽しみ喜怒哀楽も共にできるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も協力者の一員として最低月1回は面会に来て頂く様声がけをしている。通院や外出等の支援もお願いしている。又家族会として夏祭りや芋煮会などの企画に参加をお願いしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方々が自由に面会できるよう開放している。又、個別対応で馴染みの場所へ外出したり、面会に出かけたり自由にできる環境を作っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間と落ち着いて過ごせるよう場所を提供したり、職員も中に入り、入所者同士が良い関係作りができるよう常に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・退所になった方には、お見舞いや面会に伺ったり、今後の対応について相談された時は、家族の気持ちに添い、適切なアプローチ・支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の意向確認や日々の会話の中で、本人の希望をできるだけ取り入れられるよう努めている。(食事・外出等)	日々のかかわりの中で声がけしながら意向を把握している。又センター方式を利用して職員が利用者の意向に関する情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの情報収集や、これまでのサービスの記録を基にこれまでの暮らしの把握に努めている。又、お茶の時など個別に聞いて把握しケアの参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録・バイタルチェック表等を基に日々の行動・会話から現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリングを実施している。又、随時家族の意向を確認している。月1回のカンファレンスで意見交換・現状把握に努めている。	本人の思いや意向、意見を聞き関係者の意見も含め職員で話し合い計画の作成に活かしている。又月1回は利用者、家族の意向も確認し、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル・食事量のチェック・排泄チェック・個人記録などから把握し、さらに言動・状況の把握をしてスタッフ間の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りなどへの参加・交流会などを設けるなどして支援している。又、職員との買い物・理容店利用等で豊かに暮らせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を優先し、必要な情報は個人記録を基に受診報告書を作成し、必要時電話・口頭で伝達している。	事業所に対応した時は家族に電話で報告している。家族対応の時は受診報告書を作成している。精神科受診の時は職員も同行している。又協力医は協力的で夜間にも対応してもらっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置していないが、往診時や通院時をもって情報を伝えたり、状況報告は密にしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合面会・電話等で状況の把握に努めている。施設で具合が悪くなった場合は、主治医に相談し、処置して頂いたり紹介状でたの病院へ受診できるよう支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時のアンケートで意向確認をしている。看取りについてはあすなろではまだ体制が整っていない。	重度化にともなう意思確認書を作成し、事業所が対応できる介護について説明し同意を得ている。終末期に対しては書類を作成、担当医も交え話し合いをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期ではあるが、訪問入浴の看護師から講習を受け、急変時・自己発生時に対応できるように努めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害訓練を行い、消防署の意見を頂くなどしている。昨年は南陽市主催で行ったが、現在はあすなろの体制作りの途中である。	南陽市の通達により、地区の消防訓練、避難訓練に参加している。年間を通したスケジュールや、マニュアルも整備されており、定期的に訓練を行い、消防署に報告書を提出している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉かけや対応に気を付け、常に接している。	利用者の前での職員間のトラブル、夜勤の時の対応は、日頃より、管理者が注意をしている。「逃げ場のない利用者・・・」と考えて職員は考えて対応するように、管理者スタッフを指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自分の思いや希望を出したり、自己決定ができるように待つ姿勢を大切にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく思いを優先し、その方に合わせた援助ができるよう努力してはいるがまだまだ足りない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を着たり時々お化粧品やマニキュアをしたりしておしゃれを楽しんでいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞いたり、一緒に準備や片付けをしている。	ユニット毎に材料が同じでもメニューがちょっと異なる、その日の買い物は翌日の昼食までのメニューを考えてする。下ごしらえ、おやつ(タコ焼き、おこのみ焼き)等は利用者と一緒に、下膳は利用者が自発的に行っている。	今後は更に食事の充実を図るためにも、栄養のバランスなどに関して、市町村の栄養士や保健師などに年2回程相談することが望まれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェックをしたり、体重・排便など状態の把握は常に心がけている。水分補給でなかなか動けない方には、ペットボトルをベット脇に用意したりして対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。本人の状況により介助の割合は異なるが、できることは手を出さず待つ姿勢で臨んでいる。夜間はポリドントで入歯洗浄している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中排泄の失敗がない方には下着で対応している。夜間PTイレを使用する方には、移動時に転倒しないよう定期的に巡視している。オムツにはしない様心掛け、定時誘導をしている。	排泄チェック表を利用し排泄パターンを把握してトイレに誘導している。夜は一部ポータブル、オムツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ったり、個々の状況にあわせ下剤の種類や量を主治医に相談しながら調整している。本人の負担にならないよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回のローテーションを組み、基本的に15:30～17:00の間に実施している。必ず希望通りには行かない事もある。	最低週2回の入浴を実施している。体調、生活パターンに合わせておやつの後夕食のあとに入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの習慣や気分・体調にあわせ自由に休息している。夜間眠れない方も無理せず落ち着いてから休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を基に複数のスタッフと間違いない様声がけし確認している。飲み込み確認までしているが、疑問な事があれば、医療機関に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクリエーションを行うが、無理せず、その時の気分・常態に合わせて参加の有無を決めている。得意なことや元気が出る様な事があればお誘いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの人数により企画してもできないときはあるが、できる限り添えるように努めている。	買い物、理美容、近くの親戚等へそれぞれ外出しているが、月1回は季節の花を見る等のドライブをしている。最近宮内駅にうさぎの駅長を見に行くのを楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は金庫で管理しているが、希望に応じ使えるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自由に電話や手紙を書いたりできるようにしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除などで清潔を保ち、季節感を味わえるように花や絵を飾っている。又全体的に空調や照明を適切にするよう心がけている。	玄関、居間に季節の花が沢山飾られている。廊下のソファには昼食後2、3人でテレビを見ながら歓談していた。又、畳の場所も作られていて居心地いい空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれたり、入所者同士で過ごせたり自由に行ける工夫をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを置いたり、思い出の品を置いたり、個々に落ち着いて心地よく過ごせる様工夫している。	個々人の住処という部屋作りである。家族の協力もあり、居心地良く過ごせるように工夫されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフは個々のできる範囲を知り、ひとりでできる事は自分でもらい、待つ姿勢を大切にしている。そのため安全点検をしっかりと、安心して過ごせる様配慮している。			